

OPINION

中部経済新聞

活発な国際金融ハブである香港は、近年大きな挑戦と変革に直面する。新型コロナウイルスの影響は甚大で、経済の縮小と各種の分野で転換がもたらされた。2024年現在、香港経済は回復途上と予想されている。しかし回復は予想

ナビゲーター

以上に困難であった。世界的な景気低迷、物価高騰、地政学的緊張などによる不確実性のためである。

香港GDPの3分の2を占める個人消費支出は、6四半期連続の増加後、勢いを失い減少に転じた。観光、物流、

日本への期待
世界各地から

114

今後も続く経済活性化政策

建設などの伝統的産業は、新しい発展パラダイムに粘り強く適応しつつあるのが概況である。

金利引き下げは以前から議論されており、多数が長い間待ち望んでいた。金利は22年3月から23年7月までに11回引き上げられた。高金利は銀行からの借入費用を上昇させ、消費と投資への意思決定に大きな影響を与え、香港の不動産市場にも無視できない大きな圧力となった。

投資コストの高さと景気低迷により、香港の不動産市場

香港の現在と将来

は大きな打撃を受けている。良いニュースは、昨年9月ようやく利下げが発表されたことだ。政府は昨年2月、特別印紙税、購入者印紙税、新住宅印紙税など、10年以上にわたり運用された住宅用不動産に対するさまざまな引き締め措置を廃止し、たしかに一歩を踏み出した。これにより不動産投資志向が再び高まり、香港の不動産市場と経済に必要な支援が提供されることになった。

香港はかつて世界でも有名な買い物と飲食の楽園であった。しかし地元消費者の消費が海外へ流出することで、小売りや飲食産業ではかつてない困難に直面している。コロナ期間中、香港人は海外旅行に憧れていたのかもしれない。香港人の海外旅行は大幅に増加している。

連動相場制のため、高金利下の米ドル高から香港ドルも高くなっている。比較的、香港人にとって海外での消費は手頃なものになっている。食事や買い物、娯楽を楽しむために深圳に向かう香港人は増えている。日本は最も魅力的な旅行先のひとつであり、多くの香港人旅行者が頻繁に日本を訪れている。とくに日本円が34年ぶりの安値を記録している今、訪日者による日本での消費は大きく伸びている。

香港は中国本土からの旅行者に好まれているが、中国人の消費パターンは変化している。以前は高級品への支出が多かったが、購買パターンは変化し、香港での消費は減少している。中にはホテル代が高いので香港で泊まらない人もある。以上から、地元民と外来者にとっても、香港は滞在すること自体がもつ魅力的な場所になる必要があるだろう。実際、訪問する価値のある文化的、風光明媚(めいび)な場所はたくさんある。香港の山々や島々などの自然は、観光客にとってもっと探求できる場所でもある。香港の素晴らしいさを伝えるため、より多くの宣伝が必要で必要だろう。

香港商工会議所の最近の統計によると、回答企業の44.3%が香港経済の先行きについてまだ弱気である。香港への投資も慎重になっている。とはいえ香港政府による経済活性化政策は今後も続くだろう。

【アラン・リー 香港経営コンサルタント協会副会長、リム中産連】
(月曜日に掲載)